

平成22年度 校区外部評価

※ 年度途中で、教育委員会の指示により、外部評価期間を変更。(評価期間22. 8～23. 3)

評価結果(最終まとめ)

学校名 品川区立第四日野小学校

【学校評価表の作成および評価にあたっての留意事項】

○あまり網羅的ではなく、各学校が重点的に取り組んでいる内容を中心に学校の取組や状況を評価していただくよう、校区外部評価委員等のご意見をもとに、今年度から学校評価表の様式を変更します。

○各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。また、教育委員会事務局が示した「評価の観点(黄色い部分)」について、各学校の重点的な取組と関連させて、校区外部評価委員の方々が評価しやすい(実際に評価可能な)「観点」を、**各学校で3つ程度設定**してください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。《各校で、具体的な評価の観点を設定していただくにあたっては、記入例に示したものや昨年度までの学校評価表の評価の観点などを参考にしてください。》

○この学校評価表の内容については、9月に各学校で行われる「学校評価説明会」において、校区外部評価委員の方々に詳しくご説明ください。また、その際、学校経営方針やその他評価を行うために必要な資料を、評価委員の方々に積極的に提供するようにしてください。

☆校区外部評価委員の皆様におかれましては、評価のために必要と思われる情報や資料については、遠慮なく学校にご請求くださいますようお願いいたします。

評価項目1 基礎学力の定着

学校名 品川区立第四日野小学校

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	◇ 本項目では、生きる力の基盤となる知・体を、より高い次元で徳と関連付けてバランスよく定着させる。今期はとくに以下の点について指導の徹底を図る。 ①児童にとって分かる授業、充実感の得られる授業を展開するため、指導者として常に授業の量的確保・質的改善を図る。 ②授業成立の基盤である「聞く・話す」のけじめを徹底し、授業時間の効果的な活用を図る。 ③学習の基礎的内容である「読み」「書き」「計算」を、各学年において確実に定着させる。
--	---

評価の観点	校区外部評価委員による評価		教職員による内部評価	
	総合評価 (評価)	評定についてのコメント	総合評価 (評価)	今後に向けて
①毎時間、きちんと授業が行われている。	A	教育計画に基づいて授業時数が適正に確保されている。また、各授業においても、そのねらいが明確に提示されている。	B	・拳手をためらう児童が見られる。校内研究で児童の参加意欲を高める発言の受け止め方、返し方等の授業力自体に視点を設け、授業改善のヒントとしていく。 ・授業をより分かりやすくするための教材研究・教材準備が十分にできるための時間を確保したい。 ・一層、意図的計画的な指導に努める。英語に限らず、主要教科を見合う機会を設けられればよい。
◇45分の授業時間、各教科・領域の授業時数を確保する。	A		B	
◇児童が分かるように、本時の学習課題を明確にする。	A		B	
			B	
②児童・生徒の興味・関心を喚起するメリハリのある授業が行われている。	B	それぞれ工夫がみられ、概ね当てはまる。今後の取り組みに期待したい。	B	・友だちの演奏を聴きあう場を多くとり入れ、表現力を高める。 ・拳手したり発言したりが、低調な場面も見られる。児童の意欲を高める授業を工夫していく。 ・相手を尊重する態度を基調として、教職員自身が言葉遣いの手本となるように言語環境を意識する。 ・ワークシート、教材、視聴覚教材の利用等で、フォルダやプリント収納ボックスなどを使って共有化を図りたい。 ・算数では、毎時間の始めに計算練習の時間(計算5分、丸付け1・2分)を設けている。計算の正確さ、速さは上がっているが、その分、授業の進度が遅くなってしまふ。基本的な内容の定着・習熟の時間と授業の進度とのかねあいを検討していく。
◇各時間、学習形態の工夫と、定着(習熟)の時間を取り入れる。	B		B	
◇場に応じた適切な話し方で指導する。	B		B	
			B	
③学習規律が徹底されている。	A	以前に比べて粗糖、改善されており、学校の取り組みの成果が現れてきたといえる。なお、一部の授業で、もう少し指導が入っても良い姿もあり、今後に期待したい。	B	・話す聞くの指導において、規律を教え込むのと同時に、相手の話を尊重することの大切さについて各教科において指導していく。 ・言語環境を整えるためには、相手を尊重する気持ちを持ち、丁寧な言葉を使うことが大切であると教職員が共通理解して、発言の内容や言葉遣いに留意していく。 ・児童同士の呼名の仕方や自分たちの発言などを聞きあう態度を徹底させる必要がある。
◇教師や友達の話、発表を最後まで聞かせる。	A		B	
◇授業の開始と終了のけじめ(あいさつ)をつける。	A		A	
			B	

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

学校名 品川区立第四日野小学校

評価の観点	校区外部評価委員による評価		教職員による内部評価	
	総合評価 (評価)	評定についてのコメント	総合評価 (評価)	今後に向けて
<p>本校の基本的な考え方 (特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</p>	<p>◇ 本項目では、生きる力の基盤となる徳を、より高い次元で知・体に関連付けて定着させる。今期はとくに以下の点について指導の徹底を図る。</p> <p>①一般社会での基本的なマナーやルールを守る態度を育てるため、統一した生活指導を推進する。 ②市民科授業の量的確保・質的改善を図る。</p>			
<p>①児童・生徒は、場に応じた行動の仕方を身に付けている。</p>	B	<p>概ね当てはまるが、廊下を走る児童や進んであいさつができない児童も一部、見受けられるので、指導の徹底を期待したい。</p>	B	<p>・あいさつの強要は自発性に繋がらないので、進んで挨拶させるために良さを取り上げて指導を継続していく。・こうなさいではなく、どうすべきかを問いかけ、実践させる指導を常に心掛ける。 ・挨拶や返事は随分よくなってきたが、自分から進んでするまでには至っていない。・正しい言葉遣いは、家庭との連携・協力を得て改善していく。 ・朝礼や授業中などの話の聞き方はよくなっているが、ゲストティーチャーの話や放送の聞き方など、場に応じての切替ができるようにする。 ・各教員は指導をしているが、児童自身が身に付けているという点では不十分なことがある。家庭との連携(啓発も含めて)を行う必要がある。 ・教師や職員の仕事の仕方、児童の基本的な形を再確認 ・児童の変化や問題行動に対して、小さなことでも積極的に報告したり、報告し合う機会を増やしたりする。単なる報告ではなく、手立てやその後の経緯なども話し合う。 ・1学期は全員と、2学期は言動などの気になる児童と面談を行った。3学期も児童と話をする機会を多く設ける。 ・11月の「思いやり月間」での表彰を例として、子供たちの努力を認め、成長したことを自覚させる機会を設け、賞賛される喜びを体験させて、一人一人の伸びを促していく。 ・問題行動に対する指導数に対して、児童に良い社会的行動を取上げた指導数を増やし、児童全体を認めた積極的な価値付けを日々行う。(帰りの会のいいところ見つけ等)</p>
◇目上の人に対する正しい言葉遣いを身に付けさせる。	B			
◇授業時間中の校内移動は静粛に整然と行わせる。	B			
<p>②いじめを許さない等、子ども同士のよい人間関係が構築されている。</p>	B	<p>課題のある児童との個別指導など、いろいろと工夫されており、概ね当てはまる。</p>	B	
◇児童同士が注意し励まし合える温かな関係を構築できるようにする。	B			
◇児童の問題行動には、学級を越えて全職員で毅然と指導にあたる。	A			
<p>③市民科の学習を生かして、社会性・人間性の育成を進めている。</p>	B	<p>2月に4年生の市民科の授業を参観したが、市民科の授業のめらいが十分に達成されるような授業であった。こうした授業が全校挙げての一つの共通目標として取り組んでいってほしい。期待したい。</p>	B	
◇市民科授業の実施時数を確実に確保する。	B			
◇市民科のねらいに即した授業の質的改善を図る。	B			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 小中一貫教育の推進

学校名 品川区立第四日野小学校

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	◇ 本項目では、品川区小中一貫教育要領による学校教育の一層の充実を図る。今期はとくに以下の点について指導の徹底を図る。 ①小中一貫連携グループでの研究・研修を一層推進し、学年末へ向けて具体的な成果をあげる。 ②保護者や地域が、小中一貫教育のよさをより深く理解するように努める。				
	評価の観点	校区外部評価委員による評価		教職員による内部評価	
	総合評価 (評価)	評定についてのコメント		総合評価 (評価)	今後に向けて
①校長は、小中一貫教育の意義を教員に指導している。	A	分離型一貫校のこともあってか、すべての教員がグループの連携事業についての説明の点で十分でないと認識されており、もう一歩の取り組みに期待したい。		B	・英語の指導に関して、研究先進校から指導の工夫・教材などについてのアドバイスを受け、さらに授業の改善を行っていく。 ・今後も児童の健全育成上、重要な点について、連携して指導し、成果をあげる。
◇全教員が、荏原一中グループで行っている連携について説明できる。	B			B	
◇共通指導項目の一つ「チャイム着席」をとくに徹底させる。	A			A	
				B	
②学校は、保護者・地域に、小中一貫教育のよさを理解してもらおう努力をしている。	A	さまざまな情報媒体を活用して情報提供はなされている。		B	・学校だより以小中一貫教育に関する内容を書くことがほとんどない(とくに低学年)が、低学年と中学校との間でどのように「連携」し、それを保護者に伝えていか考えていく。 ・小中連携が、児童の育成によりよい効果を挙げるものとの周知を図っていく。
◇小中一貫ニュース・関連サイトを予定通り作成・配布・配信する。	A			B	
◇学校・学年だより、学期に1度は小中一貫に関する記事を載せる。	A			B	
				B	

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 保護者・地域との連携

学校名 品川区立第四日野小学校

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	◇ 本項目では、第四日野小学校の地域の特性に根ざした保護者・地域との連携を充実させる。今期はとくに以下の点について指導の徹底を図る。 ①保護者や地域と、本校教職員との関わりを深め、よさを積極的に伝える。 ②PTAや地域の行事に、より多くの職員が参加し、保護者や地域との関係を円滑にする。				
	評価の観点	校区外部評価委員による評価		教職員による内部評価	
	総合評価 (評価)	評定についてのコメント		総合評価 (評価)	今後に向けて
①校長は、保護者・地域に対して積極的にかかわったり情報発信したりしている。	A	全職員は積極的に地域行事等に参加しており、本校の活動の特色のひとつを形成している。今後も期待したい。		A	・今後も積極的に地域とかかわり、生活の場における児童の姿を把握していく。 ・誰もがホームページの更新などができるように研修の機会を設ける。
◇PTAや地域の行事へ、全職員が積極的（年5回以上）に参加する。	A			A	
◇学校だよりやホームページ、メールなど、積極的に配布・配信する。	A			A	
				A	
②学校は、保護者・地域の力を十分に生かして教育を進めている。	A	いろいろな活動を通して地域・保護者の協力のもとで取り組んでいる。		B	・地域にある人財を含めた学習財を発掘し、積極的に学校教育に活用する。 ・定例化する取組の中に、双方どちらかに負担となるものもあるので、形式を考えていく。 ・各曜日1回以上は学校公開日を設定し、教育活動の透明性を高める。
◇各学年で、ゲストティーチャーを招いた授業を学期1回以上行う。	A			A	
◇授業公開を中心として、教育活動の透明性を高める。	A			B	
				A	

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 環境整備・美化

学校名 品川区立第四日野小学校

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	◇ 本項目では、校内施設の安全確保と学習環境の改善を推進する。今期はとくに以下の点について徹底を図る。 ① 児童が安全に過ごせるよう、全職員が「安全確保」の高い意識を持って点検・改善を行う。 ② 各室が機能的に使用されるよう積極的に整備を図る。				
	評価の観点		校区外部評価委員による評価		教職員による内部評価
		総合評価 (評価)	評定についてのコメント	総合評価 (評価)	今後に向けて
① 児童・生徒の安全に配慮した教育環境が整えられている。		A	児童の安全確保に向けて、教育環境は良く整備され、点検も確実になされている。	B	・月1回、学期始めに重点的に点検するなど、全職員が意識をもって行う体制で臨む。
◇ 施設の安全点検・整備を全職員で行い、迅速に改善を図る。		A		A	
◇ 児童の安全確保に留意して学校施設を使用する。		A		B	
				B	
② 教育活動に適した環境(掲示、清掃等)が整えられている。		A	掲示物も適切であり、児童の活動の様子がよくわかるものである。また、校内もきれいに清掃がなされている。	B	・校内の掲示物がいつまでも同じものが貼られていることがあるので、もう少し頻繁に貼りかえる、不要なものは外し、いつも新鮮な情報の提供に努める。 ・教員が少ない分、児童だけでもきちんと清掃できるように今後も指導していく。
◇ 教室や校内の掲示物は、指導や管理が行き届き整然としている。		A		B	
◇ 校内の清掃が行き届き、児童には集中して清掃に取り組ませる。		A		B	
				B	

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 学校独自の特色ある教育活動

学校名 品川区立第四日野小学校

本校の基本的な考え方	◇ 本項目では、独自の特色ある教育活動の充実を図り、本校の魅力を高める。今期はとくに以下の点について徹底を図る。			
	①小規模校のメリットを生かして、学習指導・生活指導を機動的に展開し、保護者の信頼を獲得する。 ②本校の歴史・伝統を生かした教育活動を展開し、地域の信頼を獲得する。			
評価の観点	校区外部評価委員による評価		教職員による内部評価	
	総合評価 (評価)	評定についてのコメント	総合評価 (評価)	今後に向けて
①個に応じた指導の充実で、児童の学習力・生活力を大きく伸ばしている。	B	本年度の重点事項の一つとして取り組まれたものであり、教員の共通認識のもとで展開されている。次年度は、その成果が目に見える形で現れることを期待したい。	B	・児童の学力・体力の「底上げ」のために、教育ボランティアの活用、理解度の進んでいる児童から理解の難しい児童への教え合いの体制作りを進めていく。 ・今年度は、プール開きが遅かったため、来年度はプール開きを1週間早く行う。
◇一人一人の状況を細かに見取り、個に応じた指導の成果を上げる。	B		B	
◇各学年での「読み・書き、計算」「泳ぐ」を9割以上の児童に身に付けさせる。	B		B	
			B	
②開校85周年にちなんだ教育活動に取組み、地域との連携を図っている。	A	85周年事業と関連づけた活動が地域と連携して行われている。	A	・周年行事に関連付けて実施し、例えば「モーニングコンサート」など、好評だったものについては、今後もできる限り継続する。 ・資料室の整備など、地域と学校とのかかわりがわかる場づくりを進める。
◇85周年と関連付けた集会や音楽活動等を展開し、地域と連携を図る。	A		A	
◇本校に関係の深い人々と児童とのつながりを持たせる活動の場を持つ。	A		A	
			A	

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

その他 お気付きの点を自由にお書きください。

小規模校としてのメリットである、きめ細かな個別指導の成果を確実に具体化していくことが今後の課題の一つだと思われる。そのためには個人の指導力のレベルアップと同時に組織としての取り組みに期待したい。基礎学力の定着を確実に果たす学習サイクルの構築に向けた新たな取り組みに着手しているところでもあり、次年度は、その確かな一歩となることを期待したい。